

江の島神社は、もともとあった自然の島(主として新第三期の海成堆積層)の上にある。神社に向かう参道は坂道で、商店街になっている。土産物店、海産物の食堂、旅館、それに郵便局まである。



平日の午前中なのに、参道の商店街は非常に賑わっていた。私はこの商店街で手に入れたいものがあった。「貝」である。食べる為の貝ではない。コレクション用の「貝の標本」である。もともと江の島は、相模湾産の珍しい貝の標本を売る店が多く、かつては世界中の貝類学者やコレクターがわざわざ購入に訪れるほど有名だった。しかし最近は貝の標本を扱う店は激減し、あっても、店の奥に追いやられている。



しかし全くなくなってしまったわけでもない。この店には外のショーウィンドウに、珍しい貝をたくさん並べてある。



この円錐型の貝は、「オキナエビスガイ」といって、深海に住む珍種の貝だ。原始的な体勢を維持していて、「生きた化石」の一種とも言われる。「リュウキュウオキナエビス」「テラマチオキナエビス」など、何種類もあるが、この日見たもので最も高価な標本は、1個35万円の値がついていた。しかし、この店のショーウィンドウは外の光が直接当たるので、貝殻の退色があり、価値を落としてしまっているのが残念だ。



### 「マボロシハマグリ」(マルスダレガイ科)

*Hysteroconcha lupanaria*

(西メキシコ San Carlos Guaymas 産・田中標本)

入手したい貝は2種類あった。一つは写真の「マボロシハマグリ」名の通り「幻の蛤」である。相模湾産ではないが、かつて江の島の売店で見つけ、買いそなった苦い経験がある。写真のものは後日、海外のオークションサイトで入手したものだ。しかし、この貝の特徴である長いトゲが完全ではなく、サイズも小さい。もっと完全なものを欲しかったのだが、この日も江の島で1個も出会えなかった。